

## 当日発言および道本部答弁

### ●札幌地方本部

第2回拓大地本代表者会議へ参加のみなさん、たいへんお疲れ様です。札幌地方本部執行委員長の藤森です。私からは、第49回衆議院選挙候補予定者の第2次推薦と補欠選挙の候補者推薦、第26回参議院議員選挙闘争の取り組みについて発言させていただきます。

まず、衆議院選挙候補予定者の推薦についてです。菅政権の、政治とカネの問題が相次ぐなかで起こった、アキタフーズ問題により自民党所属の吉川元農林水産大臣が辞職したことにより、執行されることとなった衆議院北海道第2区の補欠選挙は、年内に必ず実施される第49回衆議院選挙における「政権交代」実現の足掛かりとして極めて重要なたたかいであると認識しております。

北海道第2区を有する札幌地方本部としては、11月に開催した第1回定期大会および12月に開催した第1回執行委員会において、第49回衆議院選挙の候補予定者として、第2区の松木謙公さんを含め第1区から第5区における各候補者の推薦を決定しました。また、先日行った第1回単組・総支部代表者会議では、2月末をめどに定期大会や執行委員会などで、選挙区に対応した候補予定者の推薦を決定するとともに、組合員および家族、退職者等に機関紙等を活用して周知をはかるほか、各単組・総支部が取り組むあらゆる機会において、政治に関する学習・対話・情報宣伝の場面をつくる取り組みを提起しました。

本日の第5号議案として提起された補欠選挙の推薦についても、地本のみならず関係単組を含め早急に推薦を決定し、政治闘争をたたかいぬく基盤づくりを進めていきます。

次に、第26回参議院議員選挙闘争の取り組みについてです。自治労本部の現職書記長の決意を重く受け止め、補欠選挙同様、札幌地方本部としても早急に推薦を決定し、鬼木誠さんの必勝にむけて全単組が一丸となって取り組みを進めていけるよう、単組との連携を強化していきます。

コロナの影響により日常的な活動も制限されているなか、候補者の名前を浸透させることは課題ではありますが、第25回参議院選挙での岸まきこさんの得票数を超えられるよう全ての組合員が一つになり、公共サービス現場の意見反映、地方自治と地方財政の確立に向けた政策実現のため、松木謙公さん鬼木誠さんの必勝に向けて取り組みを強化していくことを決意し、発言とします。

第2回拓大地本代表者会議へ参加のみなさん、たいへんお疲れ様です。札幌地方本部副執行委員長の二川です。私からは、昨年8月に寿都町、神恵内村が高レベル放射性廃棄物処分場受け入れの文献調査に応募した件について、この間の後志管内での動きについて報告させていただきます。

全道、全国に広がった反対の声を顧みることなく、文献調査問題は、10月9日に寿都町が国へ応募、神恵内村は国の調査実施申入れを受諾し、11月17日には国が調査を行うNUMOに対して、事業計画を認可、事実上「文献調査」が開始されました。

このような許されざる事態が進行していくなかで、後志管内の町村では、「放射性廃棄物を持ちこませない」条例の制定や、議会で意見書を採決する動きが活発化しています。

寿都町に隣接している、島牧村では核のごみの受け入れを拒否する「放射性物質等を持ち込ませない条例」を12月議会で可決しました。他にも、黒松内町、蘭越町、古平町、積丹町において、核のごみを拒否する条例を3月議会で成立することを目指しています。また、倶知安町、ニセコ町も条例案に「放射性物質等の処分、保管および研究に係る調査、施設の建設・運営に係る交付金、補助金、助成金等の資金を受領しない」を基本施策に組み込んで、条例成立に向けて進んでいます。

寿都町でも条例案が議会に上程されましたが、賛成反対同数で議長の意見で否決されたことを受け、寿都町の住民団体は議会解散を目指し、署名活動を行っています。寿都町職は、組合員が住民団体の活動に深く関わることで、不利益を被ることがないように注意喚起を行いました。

札幌地本としても、引き続き後志管内の動きを把握しつつ、道本部、平和運動フォーラムと連携しながら、最終処分場を阻止し、北海道を核のゴミ捨て場にさせず、私たちだけでなく北海道に住む将来の全ての道民のためにも安心、安全な社会を築けるよう全力で取り組みをします。

最後に、今年の抗議打電や団体署名について、全道の地方本部・単組・総支部の皆様には、ご協力いただきありがとうございます。

今後も、引き続くこの闘争を闘い抜くこと誓い、発言いたします。ともに、がんばりましょう。

## ●道北地方本部

お疲れ様です。道北地方本部の執行委員長となりました楠本です。

先に事前発言を提出しているところではありますが、補足的な意味合いで2点について発言させていただきたいと思います。

1点目は組織強化、とりわけ単組と地本・道本とのつながりの強化についてです。

多くの単組で、過去の採用抑制による人数の層の薄い世代が運動の中核を担う年齢となり、役員の担い手不足という共通の課題を抱えています。同時に、早期の管理職登用が進んでいることもあり、執行部の若年化や役員の経験・学習不足から組織力量が低下し、組織の運営で手一杯となり『こなしの運動』となってしまっている現状にあります。

このような中、道北地方本部では2023年までを経過措置期間として、4人専従体制を維持することとしており、留萌・宗谷では今年4月から新しい専従者が着任しますが、1人は青年、1人は青年を卒業したばかりとなっています。

今後、単組との信頼を築き、指導・助言をする立場となりますが、経験も浅く、専従者として何をすべきなのか、何をしなければならないのか、手探りの状態からスタートとなります。

一方、今春闘の道本部・地方本部合同オルグについて、コロナ禍により札幌からの往来を敬遠し、WEBでの実施を希望する単組も少なからずあり、単組と地本・道本の関りが希薄になっていると感じています。

コロナ禍において課題が山積する中、単組運動をしっかりとサポートしていくためには、専従者を活動家として育成していくことが必要となりますし、同時に、希薄になった単組との関わりを取り戻さなければなりません。

道北地本としても、専従者間での連携を密にし、相談し合いながら運動を進めていきますが、活動家としての育成といった面では、それだけでは不十分ですし、職場の実態や雰囲気を感じるためには、やはり職場を訪問して対面で話をするのが重要だと考えています。

今後、道本部にも協力をいただきながら、専従者の育成と単組とのつながりの再構築にむけて、具体的な手段を検討していきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

次に、2点目は政治闘争についてです。

昨年9月に発足した菅政権は、コロナ禍により多くの国民が影響を受け、不安な生活を強いられているにも関わらず、自己責任に委ねて対応が後手にまわる政府のコロナ対策に、多くの国民が不満を募らせています。

このような中、今年10月には現在の衆議院議員の任期が満了となることから、それまでには必ず総

選挙が行われることとなります。

来る総選挙では、『自助の強要』ではなく『互いに支え合う共生社会』の実現にむけて、「中道」「リベラル」勢力の躍進をめざし、組織の総力をあげて取り組みを進めなければなりません。

また、来年には参議院議員選挙が行われます。先に開催された自治労本部第 159 回中央委員会において、自治労本部書記長である鬼木誠さんを立憲民主党から組織内候補として擁立することが確認されました。

政府の新型コロナ対策により混乱を招いている自治体職場の現状、慢性的な人員不足により疲弊している公立病院や診療所などの現場の実態、組合員の思いや声を国政に届け、制度・政策に反映させるためには、私たちの代弁者を国政に送り出すことが必要となりますし、コロナ禍において、その必要性はさらに高まったと言えます。

道北地本としても、職場を変える、生活を変える、社会を変えるためには、やはり政治を変えるしかないということを全体で共有し、今年の衆議選、来年の参議選の勝利に向け、取り組みを強化していきたいと考えています。

最後になりますが、統合により組織の枠組みは大きくなりましたが、運動の原点が仲間の生活や職場の実態にあることを忘れることなく、道本部と地方本部の連携を強め、単組と向き合いながら運動を進めていきたいと思っておりますので、引き続きの道本部のサポートをお願いして発言とします。

#### ●道南地方本部

この間、調査物やアンケート結果から、組合員の声をまったく生かされていないという回答・声がある。地本としても組合員の意見にどう向き合うのか、全部は無理だが、対応したということが見える取り組みを地本としてやっている。そういった調査物やアンケートからの組合員からの声は道本部どのように議論をされているのか、それをどう生かしたのかが、見えないとまた組合員からアンケートに厳しい意見を書かれてしまう。

また、政治闘争の取り組みについて、支持者拡大の取り組み秋までに衆議院の選挙が行われるので、同時に支持者拡大の取り組みをしたい。具体的な今後のスケジュールがいつ出てくるのか、また同時に拡大の取り組みをしていいのか。いずれにしても組合員に少しでも時間をかけずに取り組みをすすめてもらいたいと思っている。

ワクチン接種の取り組みについて、要請書に地方本部委員長名も入れてほしいと単組から要望があった。また、渡島総支部は口頭、桧山総支部は 22 日頃に連合・地本入れて要求書を提出していく予定。今後も道本部には先手の運動をけん引してほしい。

時期的に摂取に関する要請を春闘要求のなかに入れてもよかったのでは？要請書を出して終わりという単組もあることと思うから、春闘なら交渉の場を持ちやすいから。組合員の声をいれるということでは、都市・町村の意見も聞いてスタートすべきではなかったか？この取り組みはよいことだと思う、だからこそ一度下すことで、自治体単組の組合員が摂取業務の要請をしているんだという意味統一になるのではと思う。

また、各振興局は出さないということになっていたが、この部分に疑問を持っていた。振興局と市町村がともに考える重要な案件である。すべての振興局での提出、もしくは口頭での要請など、道本部としての取り組みなので、全単組・総支部で全体で取り組むべきでは。

## ●胆振地方本部

私からは、当面の闘争方針に関して、人員確保の取り組み、労働安全衛生体制の確立に向けた取り組み、組織強化拡大に向けた取り組み、ウェブ会議の環境整備について4つ発言させていただきます。

まず、「人員確保闘争の取り組み」についてです。胆振地方本部でも人員確保闘争は重要な取り組みであると認識しています。この間3年連続組織集会で、取り組んでいる名寄市労連、富良野市労連、帯広市労連から、役員を講師に人員確保闘争の実践例を講演してもらい、学習を積み重ねてきました。しかし、地本内では定数交渉として、苫小牧市職労の実践のみで取り掛かる単組はありません。胆振地本の2021春闘方針の中でも、人員確保の取り組みは単組で何から取り組めるのかを追求し、道本部が示す人員確保の進め方を単組の役員で読み合わせから初めて、何から取り組めるのかを議論することを提起しています。マル5にある、単組が春闘期に行うのには、要求書の提出とありますけれど、職員配置等に関する要求書案の方には、P135に記載されていますけれど、なかなか、人数の補充人員を出すのには、単組のほうではハードルが高いと感じています。適正な定数、必要な人員とは何なのか、また必要な人員をどのように導き出せばよいのか。道本部も単組と取り組むことを要請します。

次に、労働安全衛生体制にむけた確立の関係で、ハラスメント防止に関してです。胆振地方本部では、単組役員が職場で感じるハラスメントにどのようなことがハラスメントに当たるのか、どう対応したらよいかかわからないという単組の相談から、道本部から講師を招いて学習会を開催し、その後、消防職場で起きたパワハラ問題に単組が当局に相談体制の整理を図らせることになった単組や組合全体で学習会を受けて、職場で起きていることがパワハラである認識を持ち、職場で労働安全衛生委員会の実施を求め、開催することが決まった民間単組など学習し、単組で話し合うことで、着実に確実にむけた取り組みが図られています。P165にあるパワーハラスメント対策の取り組み状況調査には、総務省実施とありますが、自治労としても点検をかけ、把握していくことが重要であると考えます。また、今後も学習会を検討している単組もありますので、今後も道本部には、講師の派遣を要請いたします。

続きまして、P178の組織強化拡大の関係で、地域組織拡大強化の取り組みについてです。道本部分方針に組織の存亡をかけた取り組みとありますが、胆振地方本部にも、組織率の低下に単組役員も理解をしているものの、日常業務の忙しさもあり、青年部任せになっている単組や準備に十分な対応ができない単組もあります。胆振地方本部も集中した加入対策を図る必要がある単組もあるので、道本部にはP180ページにも記載がありますが、準備期間も含め、人員も含めた対応を要請します。

最後になりますが、ウェブ会議にかかる環境設備についてです。胆振地方本部2021春闘討論集会を1月30日に苫小牧市民会館をメイン会場として、苫小牧会場での参加ができない単組については、ウェブで結ぶハイブリット方式で開催しました。あらゆる取り組みを進めるための活動を、青年部・女性部・各評議会連絡会議、対面による会議ができないため、ウェブ会議の開催方法が増えています。集会やセミナーがウェブでの開催が多くなっている中、胆振地本では、苫小牧江尾サテライト会場とし、単組や自宅などでの参加の呼びかけを行い、旅費の助成などを行い、より多くの単組からの参加をめざしています。道本部は、ガルーンの導入時には、環境整備で、組合事務所がない単組などには、ノートPCやポケットWi-Fiを配布していますが、今後もさらに増えるウェブ会議など対応するためには、カメラや機材などの購入が必要になってきます。道本部には機材の拡大を含めた対応を検討するというので、先ほどの答弁にもありましたが、胆振地方本部にも、ウェブ会議に対応する環境整備を要求します。

## ●十勝地方本部

清水町職における初任給算定誤りにおける取り組みの経過について。

2年制の専門学校卒算定に対し、長年にわたり、高卒同様として賃金が算定されていたことが2019.7に発覚し、この間、単組・地本・道本部の共闘により、対象者6人の損失補償を求めるたたかいをすすめてきた。

町当局は発覚当初、誠意をもって対応するとしてきたが、人事院規則の「できる」規定により、その後の交渉で当局は「違法性はなく、支給の必要ない」と文書で示してきた。

単組は全額支給に向けて交渉を行ってきたが、この問題が新聞報道や町議会の調査特別委員会に発展したことも、課題解決の障害となっていた

町側が頑なな姿勢をくずさないなか、単組としては、2020.10 組合員アンケートを実施し、組合員の気持ちを吸い上げたうえで、たたかいの方向性を組み立ててきた。結果、理事者に対し要求書提出の動きもあったが、これまで文書で当局とやりとりをしてきたことから、それでは解決の糸口はつかめないと判断し、四者会談をお行うこととした。

1/18に四者会談を行い、道本部からは永田部長が参加。組合員アンケートから明らかとなった組合員の不満をもとに、いままでの運用是正、町からの説明責任、労使で解決することなどを要求した。その結果、組合に歩み寄るような内容の発言を引き出すなど、課題解決に一步前進する内容となった。引き続き、道本部から情報もらいながら、最大限のバックアップを進めていく。

## ●釧根地方本部

釧根地本で副委員長をいています渡邊です。会議にお集りの皆さん、大変おつかれさまです。

私からは、昨年度道本部と合同で行った新規採用者組織化について、お礼及び、今後のお願いも含めて発言させていただきたいと思います。

昨年度釧根地本として、重点課題としてきた新規採用者組織化については、この間の取り組みが成果につながっていない単組に重点を置き、道本部にも連携や協力を仰ぎながら対策を進めてきました。まずは、これまでの対策を振り返り担当役員を決めてかかわりを増やす手法や説明会の開催を、新規採用者が集まりやすい時間帯とするなど、これまでの取り組みありきでなく、新たな手法により、具体的な取り組み方法などを議論してきました。

結果として、対策を行ったすべての単組で組織率の上昇しました。

また、新規採用者だけでなく、採用2・3年目で未加入となっている職員に対しても新採とともに説明会にはオルグを行い、組織率が上昇してきています。

釧根地方本部として、組織強化につながる大きな一歩となった取り組みになりました。

仲間に率直に向き合うこと、そして、仲間の声、事実から取り組みを進める重要性をあらためて認識させていただきました。

その後もコロナ禍の状況ではありながらも、未加入者を含めた歓迎会を開催するなどの単組独自で継続した取り組みを進めています。

一方で、100%の組織化を達成できた単組はなく、要因として、まわりの職員が入っていない、同期で入っていない職員がいる、病院・保育所の職員がほとんど入っていないなど、単組によってさまざまな課題が残され、確定期オルグにおいても、担い手不足に苦労しているとの声も各単組から出されています。

釧根地方本部として、新規採用者の対策の取り組みは、継続した取り組みのなかで仲間を増やし続けていくことが必要と考えています。新規採用者の組織化は、担い手不足や財政難による活動減少の課

題などにも大きく影響します。

しかしながら、コロナ禍の状況のなか、あらたな課題等に単組が追われ続けていることが懸念されます。

釧根地本として、単組に寄り添い、議論の経過や情報を共有し、各単組の組織強化につなげていく決意でありますので、道本部におかれましても今年度も昨年同様の支援をよろしくお願いします。

ともにがんばりましょう。

## 道本部答弁

### ●山木書記長

道南地方本部からありました、組合員の声についてです。類似するものは除くなど、なるべく負担とならないよう努め、本部から降りてくるさまざまな調査も道本部でも一定の精査をしています。単組、組合員の声による運動推進のためにもご協力をお願いします。

道北地方本部から、地本統合再編についてです。経験のない専従者も増えており、統合をきっかけに地本内での関わりを深め、道本部としてもそこに関わってまいります。

### ●三浦副執行委員長

胆振地方本部からありました人員確保について、地本として先進事例を学ぶ取り組みに敬意を表します。人員不足の課題は重要ですが、単組がどのように取り組むか、そういった提案ができていなかった考え、今回、一から提案させていただきました。単組で読み合わせから始めるということも想定しています。ハラスメントについては道本部として講師派遣し、事例など提供発信しますので、気軽にご相談いただきたいと考えております。確定闘争時にも点検しましたが、議案165ページの中身が各自治体で措置されなければなりません。新規採用者対策を含め、あらゆる取り組みが組織強化につながります。人的配置支援についても検討します。

道南地方本部からありました重点単組指定についてです。新採対策は春闘期から取り組む必要があり、はじめは一人二人、それが最終的に大きな取りこぼしとなってしまいます。単年度であっても、早期の対策が必要と考え、前年から大きく低下した単組についてピックアップしました。それぞれの単組に力があることは承知しながらも、その原因は何なのかを聞き取りすることから始めています。説明に齟齬があったことはお詫びするとともに、道本部として組織の存亡のため、最重点課題と位置付けていることをご理解いただきたいと思います。

十勝地方本部からありました清水町の初任給算定問題についてです。手引きの47ページ、道内のある自治体とは清水町のことになります。就学年数調整、前歴換算も間違っており、これが正しく行われていたなら問題はなかったはずですが、1月に賃金労働部長が入り対策を行いました。道内にはこういったことが他にもあると聞いておりますので、今後もしっかり対応したいと思います。

道南地方本部から道本部の関わりについて発言がありました。今何ができるかを実践していることを全体で学び合いたいと考えております。単組運動の強化が一番重要であり、地本とともに足を運び、信頼関係をつくりたいと考えていますので、道本部にもお声がけいただきたいと思います。

### ●佐藤副執行委員長

寿都町および神恵内村における高レベル放射性廃棄物文献調査受け入れの問題では、全道のご協力

に感謝します。島牧村では拒否条例が可決し、多くの自治体で動きがあります。北海道の核抜き条例を基本として、すべての自治体で取り組むよう進めてまいります。議会や首長との橋渡しができるのは自治労であり、条例制定に向けて各単組のご協力もお願いします。

選挙闘争について発言がありました。政治と金の問題に端を発した2区の補欠選挙では自民党は候補者擁立を見送りましたが、解散では候補者を擁立するはずです。今回に限らず、秋を見据えた取り組みが必要になります。圧倒的な勝利にむけて、知友人紹介は全道で取り組まなければなりませんので、全単組の結集をお願いします。

岸まきこの得票は、北海道で約3万、全国的にも得票は下がっています。鬼木現職書記長は自治労の組織力が試されるたたかいになります。そして次の岸まきこの取り組みにつながります。全道一丸のたたかいとしてすすめたいと考えています。社会を変えるための政治闘争になります。コロナ下で取り組みは変わりますが協力をお願いします。支持者拡大のスケジュールは、連合の日程も見極めたいと考えております。同時に進めることは、統一選でもそのような発言がありましたが、一方がだめだという方もいます。それらを踏まえ、単組に負担をかけないよう提起したいと考えております。

ワクチンの要請書につきましては、早急な対応が必要と判断したため、春闘方針に入れ込むことができませんでしたが、ご意見は受け止めてまいります。市町村が受け入れることから今回は市町村を対象としましたが、振興局につきましては、今後、必要性を見極めて対応を考えます。

#### ●森下財政局長

ウェブ環境整備につきまして、新たな機材導入は考えておりませんが、道本部が各単組に支援しているモバイルルーターについては容量の拡充を決定しました。また、じちろうネット用に貸与しているノートパソコンはウェブでの使用も可能です。現状、貸与を受けていない単組は申し込んでいただきたいと思います。